

会議録

会議の名称	第1回西東京市地域自立支援協議会 計画策定部会
開催日時	2017年6月14日（水）午後6時30分～
開催場所	西東京市役所 田無庁舎5階 503会議室
出席者	平副部会長、山口委員、小澤委員、橋爪委員、根本委員、櫻井委員、小矢野委員、藤田委員、本間委員 欠席：綿委員、天宮委員
議題	(1) 「第5期西東京市障害福祉計画・障害児福祉計画（平成30年度～平成32年度）」の策定及び平成30年度に予定する「西東京市障害者基本計画（平成26年度～35年度）」の改訂（中間年の見直し）について (2) 計画策定に伴うアンケート及びヒアリング項目について
会議資料の名称	資料1：「西東京市障害福祉計画・障害児福祉計画策定」の策定と「西東京市障害者基本計画」の次年度改訂について 資料2：調査設計について 資料3：調査項目（案） 資料4：調査票見本 第4期西東京市障害福祉計画（本編、概要版） 7月のスケジュール
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>傍聴者 1人 開会</p> <p>1 西東京市地域自立支援協議会計画策定部会協力委員依頼状伝達 ・協力委員への依頼状確認 ・配布資料確認</p> <p>2 委員自己紹介</p> <p>3 部会長及び副部会長の信任 ・委員了承のもと、綿部会長、平副部長が信任された。</p> <p>4 議題 (1) 「第5期西東京市障害福祉計画・障害児福祉計画（平成30から32年度）」の策定及び30年度に予定する「西東京市障害者基本計画（平成26から35年度）」の改訂（中間見直し）について ①計画策定の視点について ②今年度の計画策定の流れについて ③スケジュール及び検討事項の確認について</p> <p>事務局より資料1 説明 (質疑応答)</p>	

○委員：

事務局の説明に対してご質問、ご意見等あればお聞きしたい。

○委員：

資料1 参考（基本指針の概要）「1. 成果目標」の5にある「障害児支援の提供体制の整備等」のような障害児の指針ができたのは、上記の1～4を国が進めることに対して、各市町村で障害福祉計画とは別に児童という括りで障害児福祉計画を作るという理解で正しいか。

○事務局：

障害児福祉計画の根拠としては、児童福祉法が改正されたということがある。これまでも障害福祉計画内でも一定程度、障害児の支援に関しては記載してきたが、今回、改めて障害児福祉計画を定めるということになった。

法律的に18歳以上を障害者、18歳未満が障害児という括りになるが、地域生活を支援するためのサービス基盤の整備等について、改めて障害児の通所支援、および障害児の入所支援、障害児の相談支援等を提供するための体制の確保を計画的に図ることが大きな目標と理解している。これまでの計画から、もう一歩進んで、障害児の支援を具体的に定めようということが国の考え方だと理解している。

○委員：

障害者基本計画も第4期福祉計画も、重点項目の一番として、障害児への支援が厚くなっており、あえて児童を切り出して別にするのはなぜかと思っていたが、今の説明で理解できた。

第5期障害福祉計画を策定するにあたって、第4期の経過を見ておく必要がある。特にサービス量を予測し、確保して不足しないようにすることが、この計画の実質的な内容と思っている。見込み違いの有無や、質的な変化で利用者に問題がないかなどをまとめ、それを見ながら第5期の検討をすることがよいと思う。

もうひとつ、例えばサービスを提供しているものとしていないものなど、近隣他市と西東京市の違うところを知りたい。

具体的には、西東京市には就労継続支援（A型）はないが、他市にはある。以前の計画策定時に近隣他市との資源やサービスの比較資料があったが、変わったところなどもあると思うので、修正資料を出してほしい。まず周りから見た立ち位置、西東京市の障害福祉はどうかを理解しておけば議論が深まると思うので、お願いしたい。

○委員：

第4期の現状も含めて総括、進捗状況、全体的に数量も含め把握したうえで議論を進めていきたいという提案と、近隣市と比較し、西東京市で充足しているもの、不足しているものを確認しながら検討したいという提案だ。

○事務局：

未定稿だが第4期計画における27年度と28年度の実績は事務局の手元にはある。本日は議論の時間がないが、次回お示しできると思う。本日はあえて資料を出していないということをご理解いただきたい。

近隣他市との比較だが、2月の自立支援協議会で障害者人数や人口に占める割合などの資料を提供している。近隣市の事業種別資料もあるので、計画の内容について議論いただく段階までに資料として示したい。

本日はアンケートの中身のご議論に重点を置かせていただきたい。

○委員：

資料は早目にいただきたい。事前に読んで計画策定部会に臨めば、より質の高い議論ができる。

○委員：

アンケートについて、意見等があればお願いしたい。

○委員：

元号は西暦にした方がよいのではないか。先ほども意見があったが、目標の根拠がわからないので、実績をお聞きしたい。

○事務局：

公文書的に和暦を使うことになっているので、ご理解をいただきたい。

○委員：

アンケートは大体3年に1回くらいなので当事者はわかっていると思うが、同じことを聞いても大きな変化はないと思う。例えば3年前になかったサービスなど、質や形態が変わったところを重点的に深く聞くというメリハリをつけたアンケートの方がよい。そういう工夫が議論には必要だろう。

(2) 計画策定に伴うアンケート及びヒアリング項目について

①調査設計(案)について

②調査項目(案)について

③調査票見本：身体(案)について

事務局より資料2、3、4 説明

(質疑応答)

○委員：

まず資料2についてご意見、質問等をいただきたい。

○委員：

アンケートの回答率はどれくらいか。

○事務局：

第4期の計画策定におけるアンケート有効回収率は48.4%だった。

○委員：

調査設計について質問する。資料2の1から8の調査の対象者が300人、400人などと書いてあるが、母数は何人中の300人なのか。そのパーセンテージは大体そろっているのか。それとも、調査票によって多い・少ないなどメリハリがあるのか。

○事務局：

28年度末の数値だが、身体障害者の手帳所持者は5,400名程度、愛の手帳所持者は1,250名程度、精神障害者保健福祉手帳所持者は1,450名程度だ。難病患者は現在2,000名弱が医療費助成を受けている。障害児は年齢分けの数字は手元にないが、第1期障害児福祉計画なので、障害児調査は少しボリュームを上げている。サービス利用者、未利用者にアンケートを実施するが、事務局案としては身体障害と知的障害とも同数というかたちで挙げている。障害福祉サービス利用者の人数に相当すると考えている。

○委員：

サービス利用者の数から割り出し、実施人数を判断したということだ。

○委員：

サービス利用者にはほぼ全員アンケートを配るということか。障害のある人でもサービス未利用者はたくさんいるが、それが先ほどの説明した数なのか。身体では5,400名

のうち、利用者が300名で、約5,000人から200名を選ぶということか。

○事務局：

利用されていない方の中で200人程度である。

○委員：

サービスに関して様々なことを聞くことはいいが、障害者全体に関する質問は、サービス利用者の意見がかなり偏った影響を受ける設計になっているのではないか。

○事務局：

全体数は2,000名という設計だが、その中で利用・未利用を割り振りした。またサービス利用者と未利用者とも、同じ設問内容でアンケートを実施するが、集計時にはサービス利用者・未利用者の考え方や意見がわかるように、用紙を分ける、何らかのマークを付けるなど工夫し集計できるように考えている。サービス利用者の意見が偏るのではという点については、場合によってはそのような傾向が出てくると思うが、サービス未利用者がどのような意見を持っているのかわかるようにしたいと考えている。

○委員：

相談支援機関利用者等調査は主に発達障害の方が対象になっていると思うが、2次障害併存者が多いと思う。発達障害には軽度でない2次障害等もいるので、調査票はエポックのみならず講演会や研修会などでも配布先を広げてほしい。もしくはもう少し違いかたちでの対象（症状）のある人が実態に合う感じがする。

○事務局：

相談にもまだ繋がらないような人ということだろうか。

○委員：

就労支援や大学に行っているが、という方もかなりいらっしゃると思う。

○事務局：

方法について、事務局にて検討させていただく。

○委員：

資料3の調査項目だが、基本計画部分も併せて調査するということで、一定のボリュームになる。調査項目等で意見、質問等あればお願いしたい。

○委員：

児童調査のイメージがつかない。成人の調査は障害種別で分かれているが、児童は分けなくていいのか。保護者がいるので分けなくてもいいのか、その判断がわからない。

○委員：

おそらく児童のアンケートは保護者が回答するので、保護者の困り感、ニーズ等が主に反映されてくると思う。しかし、障害特性は種別によって異なるので、例えば児童調査に身体向けの項目を少し入るなどはあるかというところだろう。

○委員：

私の息子の場合だが、6歳までは普通に学校に行っていた。児童だと発達段階で障害が限定されず、良化も悪化もあるほか、医療的なケアが必要なこともあるので、もっと精度の高い聞き取りなど、特別な割り振りが必要だと思う。児童の場合、障害だけでなく、発達と教育が入ってくると、とても複雑で当事者は方法論がないところで、もがきながら今がある。特別な方法があった方が、子どもの発達を促すのではないか。

○事務局：

意見を整理し、反映できるものは示しさせていただきたい。

○委員：

新規項目として、手当や年金の使いみち、施策の認知度などがあるが、そのあたりの意見はどうか。今回の調査に差別解消法の認知度が入っていることは大きい要素で、とても良いと思う。

○事務局：

補足だが、資料4 問29に市の事業についてたずねている。問29に記載している「障害者サポーター養成講座」は、障害や障害者に対する理解を深め、専門的な知識でなくてもよいのでちょっとしたお手伝い、心遣いをして欲しい人を増やそうと始めた事業で、西東京市が全国で2番目に立ち上げた事業だと言われている。サポーター養成講座修了者には、サポーターの証として、西東京市のキャラクターがプリントされたキーチェーンやバンダナを渡しているが、障害当事者がサポーターを認知していないという話も聞く。障害者差別解消法による障害者理解のほか、市の事業認知度も含めて、設問事項とした。調査項目について、忌憚のない意見をいただければ、次回までに整理しお示しできると考えている。

○委員：

資料3（調査項目案）と4（調査票見本）の内容を見ると、もっと入れたいものが出てくると思うが、調査結果の解釈の仕方、評価方法などをイメージしてアンケートは作るべきだと思っている。過去同様の設問について、その変化から満足度が上がっているのならば、市の福祉サービスがより良くなっていると判断できると思うので、調査結果は過去からの経過を示してほしい。過去の時系列がない場合は、他市にも同様のアンケートがあると思うので、他市と比較し西東京市で満足度などが高いもの、低いものが把握できれば、今後取組が必要なことに繋がってくると思う。調査結果のまとめとして、ただ数字が出て計画に反映するというものではなく、経年結果や他市との比較といったかたちで出していきたい。

○委員：

資料4について、意見をいただきたい。

○委員：

調査票について、いくつか意見を述べたい。問9の介助・援助についての設問だが、「食事をするとき」とは、食べるだけでなく調理など、捉え方が様々あると思う。どのような時に介助が必要なのかという具体的な事象を入れた質問をならばすっきりする。

問15、問17の活動実施内容だが、スポーツやレクリエーション、趣味などのサークル活動、ボランティア活動の内容が具体的にわかる質問ならばニーズが探れるのではないか。

問32だが、視覚障害者、聴覚障害者にはどのような形式でアンケートをするのか。

問43の避難所の認知状況だが、自分が住んでいる地域の避難所（福祉避難所）の場所の認識を持てるように示せば理想的だが、そのようなことを言わなくても日頃からわかっているかどうかを問えるとよい。

○委員：

参考意見としたい。その他にもいろいろご意見をいただきたい。

○委員：

当事者や保護者にとっては、アンケートの意味がわかりづらい。このアンケートは施策について聞いているものなので仕方ないが、それとは別の聞き方で、保護者に対して施策の認知、共感を向上させていくためのものが必要である。実際にアンケートに答えられない保護者がとても多い。特に肢体不自由の保護者は子どもの援助で精一杯なの

で、施策について考えられないことが本音だと思う。限られた人数からあがってくる意見もあるので、市の施策などについて知りたい人や意見がある人がいれば、今回のアンケートとは別に機会があればよい。

○委員：

アンケートに回答することが難しく、計画に反映しにくい人などの対応も必要という意見だが、事務局に検討をお願いする。

○委員：

アンケートは紙ベース以外に点字や音声で実施するのか。

○事務局：

今のところは紙ベースのみを想定している。点字やSPコード等については検討課題として、可能な限りバリアフリー対応を考えている。

○委員：

ルビはつけないのか。

○事務局：

用意している。

○委員：

先ほど避難所について意見があったが、私が参加している団体の会員の場所を知らない人がほとんどである。やはり避難所は知っていたほうが良いと思う。

○委員：

見込み量が重要なので仕方がないが、アンケート結果から中身を改善するところに持っていく回答にはならないのかと思う。利用者数やそこに至るまでのところを重視されているのは残念だと思う。

○委員：

アンケートは選択肢なので、ここに出ない意見を拾える仕組みがあればよい。

○委員：

ボリュームのあるアンケートなので、精神障害者が最後まで集中して回答できるか不安に思う。国の指針を読み切れていないが、今後の方向をどの程度反映できるのか、今後の国の方針に合ったものが設問としてあるか、もう少し摺合せが必要だと思う。

○委員：

基本計画策定の際に、優先順位をどこに置くのか、順番をかなり入れ替えた作業をした。アンケートの最後の方の問はどうしても回答が少なくなるので、第5期の重点課題として、項目の優先順位も含めて検討はありだろう。

その他にご意見があれば、事務局まで連絡をお願いしたい。調査項目、自由記述等、様々な角度から調査の意見をいただき反映していきたい。

5 その他

○事務局より第2回以降の自立支援協議会日程調整について連絡

閉会